

囲碁を楽しむ木村さん(左)、佐藤さん(真ん中)。話にも花が咲きます。



まちづくりやボランティアなどに参加している地域活動の担い手をシリーズで紹介します

あなたも 今日から 人財に!

経験や趣味を生かして、何か人の役に立つことができたいと思っても、一人ではなかなか難しいもの。今回は、地域の高齢者施設で絵手紙講座や朗読、囲碁の相手などの活動をしている「あもり人財ボランティア」を例に、ボランティアサークルについて紹介します。

＊あもりの囲碁グループは、週2回、区内の高齢者施設でボランティア活動をしています。施設に入所・通所している人たちと対局を重ねるうちに、囲碁のことだけでなく、近況や昔の思い出などいろいろなことを語り合うようになりました。同世代の人が多いので、自然と話も弾みます。施設からも「いろいろな人と話すことで刺激になるし、職員ではここまで時間をかけて話をするのは難しいので、とても助かります」と感謝されています。

＊「年を取っても、できることはたくさんある」と、メンバーの木村省三さん。趣味の囲碁を通して同じ世代の人たちに元気になってもらえたら、と思って活動しています。また、



みんなが真剣にゲームをする中で、交流が生まれます。

幹事の佐藤勲機さんは「皆さんの経験談を聞いたり、何よりの笑顔を見られたりすることがうれしい」と語ります。楽しい時間を過ごす手助けができることがこの活動の一番の魅力。そして楽しそうな参加者の様子から元気をもらうこともあるそうです。あなたも趣味や経験を生かして、誰かの笑顔のもとになってみませんか？

あもり人財ボランティアとは？

北老人福祉センター(愛称「あさぶセンターぬくもり」)を略して「あもり」の利用者たちがつくっているボランティアサークルのこと。同センターは60歳以上が対象の施設ですが、集まって活動している人の中には、元気いっぱいの人がたくさんいます。そこで、この元気を地域のために使いたい!と同サークルがつけられました。

それぞれの特技を生かして、囲碁、朗読、芸術のグループに分かれ、昔話を朗読したり、一緒に絵手紙を作ったりといった活動をしています。活動の内容にとらわれないこと、施設の行事のお手伝いなど、一人一人の都合に合わせてながら積極的に取り組んでいます。

詳細

北老人福祉センター
あもり人財ボランティア
☎(757) 1000